

# 黒田庄地区まちづくり計画

提案書

平成 20 年 3 月

黒田庄地区まちづくり住民会議

まちづくり計画策定部会

## はじめに

この計画書は、黒田庄地区内の各種団体、階層の代表者で構成された「黒田庄地区まちづくり住民会議」内に設置されたまちづくり計画策定部会がまとめたものです。

その内容は、従来までの行政計画ではなく、黒田庄地区に住む私たち自らが描いた将来像です。それはまた、総花的な計画ではなく、自分たちが自分たちの暮らす地域を少しでも良くしていくための取り組みの方向を整理したものでもあります。とはいっても、まちづくりは、住民だけでできるものでもなく、行政と協働して、それぞれの役割を發揮していくことを通じて、その実現に向かっていけるものだと思います。

ここに描かれた将来像には、住民自身が気がついたところから行動していくこと、それぞれの思いを全体として整理することによって、まちづくり意識を広げていく機会になれば、との願いがあります。住民自身の個々の日常活動の方向を、まちづくりというテーブルにまとめたものです。その意味では、決して気負わず、一人一人の暮らしよい黒田庄への思いをまとめていくこと、それが地についたまちづくりではないでしょうか。

この計画を実現していくためには、行政の積極的な支援や政策的対応が不可欠です。昨今の自治体財政の逼迫する中でも、自治の行政組織として、住民生活の安全・安心、そして快適な日常生活のための土台と骨格形成が不可欠であることを認識し、ここに提案している事項の具体化への協議、検討を進めていくことができればと切に願う次第です。

なお、まちづくりのための基礎資料となる計画書はできましたが、誰かがやってくれるのを待つのではなく、まず自分で何ができるだろうかと考え、行動する事が大切です。私たちが誇りに思い、子ども達の未来のためにも住みつづけたいと思える黒田庄づくりを皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

平成 20 年 3 月 31 日

黒田庄地区まちづくり住民会議

会 長 藤 原 一 志

まちづくり計画策定部会

部会長 森 脇 善 壽



## 目 次

はじめに

1. 黒田庄地区の特徴	1
2. 地区の状況と問題点	2
(1)地区の状況	2
(2)まちの評価と問題点	8
3. 黒田庄地区のまちづくり計画	12
(1)まちづくりの課題と目標	12
(2)今後のまちづくりの取り組み(計画)	13
4. 今後のまちづくり行動計画	15
(1)今後のまちづくり活動指針	15
(2)行動計画	15
5. 土地利用のフレーム	17
(1)まちの特徴を活かす土地利用のゾーニング	17
(2)ゾーニングに対応した適切な維持、管理・誘導方法の検討	17

資料 1 黒田庄地区まちづくり計画策定の経過

2 アンケート調査票

3 黒田庄地区まちづくり計画に関するアンケート結果

## 1. 黒田庄地区の特徴

黒田庄地区は、西脇市域中では、その北東部に位置しており、北播磨地域の北端にあつて、北側は丹波市に接し、西側は多可町に接しています。東経135度、北緯35度に位置し、まちの中心を加古川が南流し、南北に国道175号が走っています。また、唯一の公共交通機関としてJR加古川線が走っており、黒田庄・本黒田・船町口の3つの駅があります。14の集落を基本にしなが、2つの小学校区という社会圏域に区分されており、地区の特徴は以下のように大きく3つに整理できます。

### <加古川右岸に連なる農村田園地域>

- ①丘陵地、農地と大伏・西澤・石原・田高・船町の集落が連担しています。
- ②野尾谷川から西ノ塔谷川一帯には、由緒ある寺社をはじめ、奇岩や傾斜地など、地域資源が点在しています。
- ③全町有機土壌化の実現をめざし、安全安心な農作物の生産を促進するため、土づくりセンターの整備が進められています。



### <豊かな自然と歴史を有する農村田園地域>

- ①加古川左岸北・中部の小苗・黒田・前坂のまとまりのある農村住宅地です。
- ②自然環境保全地域に指定されている荘厳寺から瀧尾神社一帯は、豊かな自然が残され、「黒田すえたにの森」として里山整備がされています。北谷川では6月にホタルが乱舞するなど貴重な植生や生態が分布しています。
- ③前坂の大歳神社と黒田の荘厳寺付近は当地域のシンボルである白山登山口があります。



### <地区の中心から門柳川流域>

- ①地区中心部にある喜多・大門・津万井・福地・岡～門柳の集落に至る区域です。
- ②門柳川の清流には、ホタルが生息し、門柳川流域には、「緑と水の郷秋谷」・「東はりまフォルクスガーデン黒田庄」・「東はりま日時計の丘公園」や総合運動公園「ふれあいスタジアム」・JAみのり特産開発センター、県の重要文化財である兵主神社をはじめ、多くの歴史・文化財と自然を基調にした交流観光施設があります。秋谷入り口からの白山や妙見山への登山ルートは白山トレッキングコースとして日本トレッキング協会の認定を受けており、町内外で広く認知され、多くの人が訪れています。
- ③市の地域総合事務所や郵便局があり、金融機関としてはJAみのりや中兵庫信用金庫あります。また、楠丘小学校や幼稚園などの教育施設があり、比較的生活基盤が整っています。
- ④JR黒田庄駅は、交流拠点施設「あつまっ亭」としてリニューアルされ、朝市など住民憩いの場として利活用されています。



## 2. 地区の状況と問題点

### (1) 地区の状況

黒田庄地区の最近の状況、いくつかの主要項目について整理してみます。

#### ① 集落別人口動態

- ・黒田庄地区の人口等について最近の動態を資料で見ると、地区全体では、人口が3%減少、世帯数は5%増加ですが、14歳以下の児童が10%減少、65才以上の高齢者が8%増加しており、少子化、高齢化が加速しつつあります。
- ・集落別には、喜多、大門、福地、門柳、大伏、西澤、前坂で児童人口の減少率が20%を超え、大門、福地、岡、門柳、石原で高齢者人口の増加率が10%を超え、地区全体より顕著になっています。特に高齢者のうち、単身世帯と夫婦世帯の合計が、平成20年1月で457世帯となっており、全世帯の18.4%となっており、今後、こうした高齢世帯が増加していくことを予想すると、高齢世帯の状況(暮らしや仕事)に対して、注視していくことが重要になっていくでしょう。

資料 集落別人口動向(上段:2003.1 下段:2008.1 右蘭は5年前増減比% △は減)

地区	人口数		世帯数		児童人口数		高齢者人口数		左のうちの世帯数	
	実数	増減比率	実数	増減比率	実数	増減比率	実数	増減比率	単身	夫婦のみ
喜多	818		229		114		196		14	
	753	△7.9	233	1.7	91	△20.2	204	4.1	29	22
大門	387		101		52		104		4	
	394	1.8	107	5.9	41	△21.2	118	13.5	7	17
津万井	411		129		53		90		5	
	385	△6.3	130	0.8	58	9.4	95	5.6	8	15
福地	347		99		50		75		5	
	336	△3.2	112	13.1	39	△22.0	90	20.0	8	11
岡	1,216		342		198		233		21	
	1,169	△3.9	357	4.4	169	△14.6	262	12.4	34	21
門柳	330		97		44		69		4	
	318	△3.6	103	6.2	30	△31.8	83	20.3	9	5
大伏	234		60		31		69		5	
	211	△9.8	61	1.7	21	△32.3	67	△2.9	6	5
西澤	227		63		39		36		3	
	207	△8.8	61	△3.2	30	△23.1	33	△8.3	8	2
石原	846		235		131		192		9	
	836	△1.2	255	8.5	112	△14.5	218	13.5	18	33
田高	640		197		97		132		11	
	599	△6.4	196	△0.5	95	△2.1	140	6.1	16	19
船町	498		148		64		128		10	
	495	△0.6	151	2.0	79	23.4	136	6.3	17	18
小苗	231		61		22		67		1	
	243	5.2	68	11.5	32	45.5	73	9.0	3	10
黒田	1,006		313		166		237		46	
	1,070	6.4	360	15.0	176	6.0	250	5.5	41	30
前坂	961		277		152		201		22	
	892	△7.2	280	1.1	114	△25.0	208	3.5	29	16
黒田庄計	8,152		2,351		1,213		1,829		160	
	7,908	△3.0	2,474	5.2	1,087	△10.4	1,977	8.1	233	224
西脇市計	46,609		15,521		6,993		10,123		1,440	
	45,149	△3.1	16,045	3.4	6,343	△9.3	11,319	11.8	1,891	1,550

児童:14才以下

高齢者:65才以上

各年:住民基本台帳

## ②農・畜産業の動向

- ・黒田庄地区では、安全で安心な農産物づくりが志向されております。こうした志向が、新たな地域産業の土台づくりに貢献していくことが期待されています。
- ・そうした生産を支えるために、市が地区内約 1,300 頭の肉用牛の糞尿を発酵熟成させ、均一な良質堆肥を生産する土づくりセンターの整備が進められています。これにより、「全町有機土壌化」による安全・安心な農産物の生産が促進され、地区の環境保全型農業、循環型社会を基盤とする新たなまちづくりへの期待が広がっていくものとおもわれます。
- ・畜産においては、多くが神戸ビーフとして出荷される但馬牛の肥育が行われており、黒田庄和牛としてブランド化が図られています。

### 資料 農産物(ひょうご安心ブランド)生産組合等

生産組合等名	品目名	活動状況
黒田庄あんしん野菜生産部会 (喜多有機農業同好会) (門柳野菜の会)	レタス(春どり、秋どり) モロヘイヤ 白ねぎ	西脇市黒田庄町の有機の里づくり推進の一環として、2集落で取り組んでいる。レタス・白ねぎの他にモロヘイヤで安心ブランドの認定を受けている。生産物は市場流通(神果神戸青果明石支所等)のみならず農産物直売施設(JAみのりふれすこ西脇店)にも出荷され、地産地消にも大きく貢献している。 認定開始年度以前から、「有機の里づくり」として地域一体となって環境にやさしい農業に取り組んでいる。無農薬無化学肥料・減農薬減化学肥料栽培に積極的に取り組んでいる。
喜多特別栽培米同好会	水稲(コシヒカリ)	平成元年より、黒田庄和牛の堆肥利用を核として、減農薬(苗箱で1回と本田除草剤で1回のみ)、無化学肥料で栽培を行ってきている。
大伏特別栽培米同好会	水稲(コシヒカリ)	平成元年より、黒田庄和牛の堆肥利用を核として、減農薬(苗箱で1回と本田除草剤で1回のみ)、無化学肥料で栽培を行ってきている。
黒田庄山田錦部会	水稲(山田錦)	平成元年より、黒田庄和牛の堆肥利用を核として、減農薬(苗箱で1回と本田除草剤で1回のみ)、無化学肥料で栽培を行ってきている。

## ③集落毎のまちづくりの動き

- ・地区内には、それぞれ形や方法によって各集落単位でのイベントやまちづくりへの動きがあります。こうした動きは、地区住民のふるさと意識の共有と継承に寄与しているものと思われまます。

### 資料 集落毎のコミュニティイベントやまちづくりの取り組み概要

集落名	内容
喜多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天満宮夏まつり(福引き、バザー等を実施し、地域における文化遺産天満宮の魅力を向上させる)</li> <li>・福聚寺における行事に「かがり火」をたいて、夜の演出をする。</li> <li>・天満宮春季例祭(招福大富くじ大会、もちまき等を実施し、部落安全祈願)</li> <li>・秋谷記念植樹イベント</li> <li>・とんど大会</li> <li>・秋季例祭</li> </ul>
大門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいパートⅠ(グラウンドゴルフ大会、心肺蘇生法・AEDの指導実施)</li> <li>・ふれあいパートⅡ(とんど焼き、福引き、ゲームなど)</li> <li>・子ども会冒険教育</li> <li>・文化財の維持管理</li> <li>・秋季例祭</li> </ul>

津万井	・津万井の日(ラジオ体操、クリーンキャンペーン、公会堂の清掃、植木の剪定、グラウンドゴルフ大会、消火訓練、舟遊び、夜店・盆踊り・カラオケ大会) ・秋季例祭
福地	・森づくりふるさと再発見(自然調査、雑木整備・草刈、ベンチ作り) ・魚つり大会 ・隣保対抗ソフトバレーボール大会 ・オールスター親善野球大会 ・秋季例祭
岡	・映画鑑賞会とお話 ・三角点ご来光登山 ・秋季例祭
門柳	・カワニナの移動放流 ・しめ縄づくり ・盆踊り大会 ・とんど ・秋季例祭
大伏	・グラウンドゴルフ ・秋季例祭(ふれあい広場) ・とんど大会 ・文化祭
西澤	・地域花いっぱい運動 ・とんど ・朝のラジオ体操から夕方の納涼彩 ・秋季例祭
石原	・大国神社祭り ・とんど ・星神社例祭
田高	・ふれあいフェスティバル2007in たこう(ふれあいスポーツ大会、ふれあい大演芸会、ふれあい里山ウォーク・植樹によるCO2削減大作戦、救急スクール開講) ・秋季例祭
船町	・スポーツ大会 ・駅・公民館環境整備 ・納涼大会 ・ふれあいハイキング ・木工・竹細工教室 ・農業体験交流会 ・とんど大会 ・蛭子さん
小苗	・春・夏・秋・冬 四季祭フェスタ in 小苗(グラウンドゴルフ大会、どろんこカーニバル、ラジオ体操を兼ねた朝のおはよう運動の展開、 ・秋祭り ・小苗ルミナリエ ・クリーンキャンペーン ・ふれあい生き生きサロン ・古奈為神社綱打ち行事
黒田	・妙見堂夏まつり(登山) ・末谷公園フェスティバル ・とんど ・秋季例祭
前坂	・グラウンドゴルフ ・巻き寿司コンテスト ・早朝ラジオ体操 ・声かけ運動 ・人権啓発(講演) ・ひまわり「いっぱい」運動 ・大歳神社祈禱

#### ④子育て支援活動

・黒田庄地区の子育て支援活動は、長年に亘る関係者の努力や協力、或いは様々な支援によって定着してきた経緯があります。そうした蓄積が、最近の少子化傾向の強まる中で、その役割や期待が希薄化しつつあるとの指摘や、従来に比べれば行政的支援が後退していると思われる中で、従来の状況を維持していくことが懸念されています。

#### 資料 子育て支援活動の概要等

項目	内容
予算	平成19年度 571千円 子育て学習センター事業費 343千円 子育て支援ネットワーク事業 228千円
支援体制	○子育てを通しての学びの場の提供 ○ふれあい・遊びの場の提供 ○異世代交流の場の提供 ○子育てボランティアの育成と支援 ○子育て環境の充実(地域・他機関との連携、子育て支援者同士のネットワークの充実)

活動概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て支援ネットワークの充実 黒田庄地区の子育て支援者と連携を図り、交流会、フェスティバルの開催 各幼稚園・保育園2～3回</li> <li>○交流みんなの広場 黒田庄地区保育園での交流あそびの開催 各保育園月1回</li> <li>○黒田庄ふれあい広場 メリーゴーランドサークル支援のもとに異世代交流と健康への学びの場の提供 夏季14集落</li> <li>○年齢別親子の会の支援・指導(西脇おやこ交流教室) 登録制</li> <li>○あそびの広場の開催(誰でも自由に参加可) 月3回</li> <li>○にこにこ広場の開催(誰でも自由に参加可) 月3回</li> <li>○子育て相談</li> <li>○子育て支援ボランティア団体の支援(下記表示分)</li> </ul>
子育て支援グループ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トトロの絵本サークル <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て学習センターで開催される「みんなの広場」で絵本の読み聞かせ</li> </ul> </li> <li>○ママ広報部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、子育て学習センターの行事や活動報告、現役ママの書いた育児日記などを載せた広報誌「くろっこランド」を発行</li> </ul> </li> <li>○もりもりやさしい畑サークル <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜作りを通して地域の方とのふれあいの場をもつ。</li> <li>・子どもと一緒に土に触れて、自分達で植えた安全で新鮮な野菜を収穫する楽しみを味わう。</li> </ul> </li> <li>○読み聞かせボランティア「ブーフーウー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせを通して、子どもたちとふれあう中で、子どもたちの想像力や感性を育むきっかけづくりや、絵本にあふれる美しい言葉が読み手にも聞き手にも豊かな表現力をつけていくすばらしさを伝える。</li> </ul> </li> <li>○リリーズ <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型紙しばいを作り、保育園や子育て学習センターの行事で読み聞かせ</li> </ul> </li> <li>○メリーゴーランド <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい巡回相談の時に、幼児、小学生の子どもと親子が集まり、ゲームやカレンダー作りを通して交流する。</li> </ul> </li> <li>○リンクスマイル <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援活動の企画、運営</li> <li>・「にこにこひろば」を月1回開催し、異年齢の親子のかかわりの中で支え合いながら、それぞれのつながりをつくる。</li> </ul> </li> <li>○スタディママ <ul style="list-style-type: none"> <li>・かしこい医療のかかり方の勉強の企画(平成20年度より開催予定)</li> </ul> </li> </ul>

### ⑤ゆめバンクの動向

・ゆめバンクは、地区内の様々なまちづくりを市民主体で誘導していくことを目標に、平成17年度から活動が開始されました。その後合併を経て、黒田庄地区の独自の取り組みとして、活動や運営が継続されており、今後への期待もあります。

## 資料 ゆめバンクの動向

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
活動概要	運営委員会(審査会含)10回開催 まちづくり活動先進地視察研修 生野町(地域づくり生野塾) まちづくり活動の情報収集・発信 くろだしょう通信ゆめバンクコーナー(掲載 3回)	運営委員会(審査会含)9回開催 まちづくり活動先進地視察研修 龍野市(かじょう会) まちづくり活動の情報収集・発信 くろだしょう通信ゆめバンクコーナー(掲載 12回) AED(自動体外式除細動器)の貸出運営	運営委員会(審査会含) 4回開催 まちづくり活動の情報収集・発信 くろだしょう通信ゆめバンクコーナー(掲載 11回) AED(自動体外式除細動器)の貸出運営
支援状況	まちづくり活動助成 14 集落・12 グループ 助成額 1,897,650 円	まちづくり活動助成 12 集落・13 グループ 助成額 1,499,000 円 夏まつり実行委員会助成 助成額 600,000 円 中学卒業生にカーネーション贈呈	まちづくり活動助成 13 集落・8グループ 助成額 1,254,000 円 夏まつり実行委員会助成 助成額 500,000 円 中学卒業生にカーネーション贈呈

## ⑥市民の暮らしと基盤整備の状況

- ・まちづくり計画策定部会委員は、平成19年7月、地区の北部と南部の二班に分かれて巡回しました。巡回による意見は、まち歩き(A・Bコース図)に集約しています。
- ・市民の暮らしの中でも、高齢者や障害者の暮らしを支える基盤は、今後の高齢化社会の主要な課題の一つです。それは、医療や福祉といった身体的なケアと共に、そういう人たちの自由な移動をどのように確保、保証していくかが問われています。
- ・地区で運行されている福祉送迎車の利用状況は、運行回数 2,000 回、利用人数については 3,000 人を超えている。

## 資料 福祉送迎車利用動向

		平成 16 年度	平成 17 年度	前年度対比	平成 18 年度	前年度対比
実働日数	(日)	243	243	0.0%	245	0.8%
運行回数	(回)	2,941	2,933	△0.3%	2,461	△16.1%
利用人数	(人)	4,179	4,341	3.9%	3,216	△25.9%
内訳 1	町内	2,830	3,137	10.8%	2,027	△35.4%
	町外	1,349	1,204	△10.7%	1,189	△1.2%
内訳 2	高齢者(A)	2,801	2,940	5.0%	2,072	△29.5%
	障害者(B)	640	613	△4.2%	523	△14.7%
	A+B	3,441	3,553	3.3%	2,595	△27.0%
	介護者	738	788	6.8%	621	△21.2%

## ⑦防災活動等

- ・地区の防災活動は、日常の火災対応と非常時の避難・防災活動です。
- ・それらの活動は、主に集落を基礎とする消防分団によって担われていますが、団員の確保が徐々に困難になっており、自主防災会の協力の条件が整えられている集落も少なくありません。

- ・非常時の防災の拠点として、国道175号に沿った位置に防災ステーションが整備されています。その概要は、以下のとおりです。その利用状況は、主として、消防分団の会議と資機材置場となっていますが、他に、この施設の市民的、日常的利用の方法を試行していくことが望まれます。
- ・平成16年10月の台風23号による洪水は、地区内でも多くの集落で冠水し甚大な被害を被りました。それは、主として地区内の加古川支流での内水氾濫によるものでした。当地区での過去の災害にも類似例が見られることから、洪水時の内水対策が望まれます。

### 資料 防災ステーション

洪水など災害時の活動拠点となる防災ステーションが、田高の加古川沿いに建設されている。総面積 5,376 m<sup>2</sup>。備蓄庫や食料庫、会議室を備えた 235m<sup>2</sup>のセンターと24台分の駐車場、芝生広場がある。センター内には、水防資機材、簡易トイレなどを備蓄している。また、堤防決壊時には、同センターに置いている土砂を水防活動に使用する。普段は、地域住民のコミュニティの場としても利用できる。

#### ○施設の概要

防災センター 235 m <sup>2</sup>	会議室 43.22 m <sup>2</sup>
	通信室 5.76 m <sup>2</sup> 防災行政無線子局及び携帯無線機
	事務室 5.76 m <sup>2</sup>
	備蓄庫 57.95 m <sup>2</sup> 水防資機材、簡易トイレ、発電機等
	食料庫 14.64 m <sup>2</sup>
駐車場	24 台
芝生広場 2,360 m <sup>2</sup>	

#### ○利用状況

- ・西脇市消防団第8分団部長会議(随時)
- ・消防団年末警戒時の会議室の利用
- ・災害時及び水防訓練等の水防資機材の活用

### 資料 黒田庄地区消防分団等の状況

	分団名	部名等	団員数	内昼間 団員数	自主防災会 消防協力員数
西脇市消防団	第7分団	分 団 長	1	1	
		副分団長	1		
		喜 多 部	21	2	10
		大 門 部	19	2	10
		津 万 井 部	20	4	10
		福 地 部	16	3	7
		岡 部	23	4	8
		門 柳 部	15	5	4
		大 伏 部	12	2	10
		前 坂 部	31	16	5
	第8分団	分 団 長	1		
		副分団長	1		
		西 沢 部	19	13	3
		石 原 部	34	2	10
		田 高 部	21	4	5
		船 町 部	28	5	10

	第9分団	小 苗 部	14	1	6
		黒 田 部	34	9	9
		分 団 長	1	1	
		副 分 団 長	1		
		特 設 部	12	0	7
計			325	74	114

## (2)まちの評価と問題点

当初、部会委員それぞれの思いや意見を出し合った項目や内容を、「黒田庄のええところ、こまったところ」現状の問題点として整理しました(別紙参照)。その要点は、以下の通りです。

これを下にして、黒田庄地区の評価について、住民会議委員に加えて、女性や若い世代等を対象にアンケートして広く意見を聴くことにしました。そうした結果も含めて、評価と問題点として以下のようにまとめました。

### 1)市民生活と福祉について

- ・子どもが少なくなり、高齢者が増えていることは、多くの方の共通した認識になっているようで、その結果として、地域の子どもの守る気風が薄くなっているとの印象が強まっているように思われます。
- ・福祉送迎車存続への期待が現われています。一方、子育て学習センターや福祉ボランティアの活動に関しては、「わからない」との答えが多く、直接的なかかわりや関心を寄せる人が限られている結果が現われているようにも思われます。

(人、%)

	そう思う		そうは思わない		わからない	
①子どもが少なく、老人だけの家庭が増えている。	94	83.2	9	8.0	9	8.0
②子育て学習センターは、参加する親も熱心で連帯感もあり、地域外からも高く評価されている。	46	40.7	14	12.4	53	46.9
③子育て学習センターの人員不足は否定できない。	39	34.5	15	13.3	58	51.3
④福祉送迎車は老朽化しているが存続する必要がある。	89	78.8	10	8.8	13	11.5
⑤福祉ボランティアの活動は活発になっている。	28	24.8	32	28.3	52	46.0
⑥地域の子どもの守る気風が薄くなっている。	33	29.2	60	53.1	19	16.8

### 2)基盤整備と産業経済について

- ・都会へのアクセスに関しては、それは回答者の利用する交通手段や住んでいる場所などによって当然異なりますし、黒田庄地区の位置そのものへの評価もあるでしょう。
- ・西脇への公共交通の整備や加古川の洪水危険、或いは地区内の防災への認識の高いことが目立ちます。また、有機野菜づくりや地区の景観などに対する期待が示されていることは、今後への明るい見通しに結びつくように思われます。

	そう思う		そうは思わない		わからない	
①都会へのアクセスは悪くない。	36	31.9	66	58.4	9	8.0
②西脇～黒田庄間の道路整備や公共交通の整備が遅れており、買い物の便が悪い。	75	66.4	33	29.2	5	4.4
③加古川の増水時に、浸水危険区域が見られる。	83	73.5	6	5.3	24	21.2
④地区の中には、地すべりや崩落など、防災上不安や心配のある区域が見られる。	65	57.5	15	13.3	32	28.3
⑤農業仲間の連帯感や地産地消への意識もあって、それに必要な技術が活用されている。	18	15.9	35	31.0	59	52.2
⑥有機野菜づくりにも取り組む集落もあり、旧西脇よりも進んでいるように思う。	47	41.6	15	13.3	50	44.2
⑦秋谷、末谷公園付近の里山景観をはじめ、それぞれの地区の伝統が継承されている。	57	50.4	19	16.8	36	31.9

### 3)教育・文化・スポーツについて

- ・整備された施設を、地区住民がもっとスポーツ施設を使いやすく、との要望は、主に地区住民が日頃利用しやすい利用料金などに焦点が置かれています。
- ・神社仏閣等の維持や改修の問題は、それにかかわる集落や関連組織で課題になってきていることが現われてきているように思われます。

	そう思う		そうは思わない		わからない	
①父母の間に、子どもに対して過保護や干渉しすぎる傾向がある。	74	65.5	24	21.2	14	12.4
②野球やソフトボールだけでなく、駅伝などのスポーツが盛んで、それらの施設は整っている。	50	44.2	42	37.2	21	18.6
③もっと多くの地区の人が、スポーツ施設を利用しやすい料金や運営方法を考える必要がある。	83	73.5	14	12.4	16	14.2
④白山・妙見山を中心とするトレッキングコースは整備されている。	38	33.6	17	15.0	57	50.4
⑤地域に親しまれる日常利用できる散策路等が少ない。	55	48.7	40	35.4	17	15.0
⑥ゲートボールやグラウンドゴルフも盛んで、グラウンドゴルフ場整備への期待もある。	55	48.7	18	15.9	40	35.4
⑦歴史的財産(神社仏閣等)があるが、それらの維持及び改修費用が不足している。	58	51.3	11	9.7	43	38.1

### 4)自然環境について

- ・黒田庄地区の自然の豊かさをはじめ、それぞれの集落にある自然環境への評価は概ね共有されている一方、宮池の水質悪化は知っているが、廃棄物の不法投棄については、場所が特定されていることもあって知らない人が多くなっています。

	そう思う		そうは思わない		わからない	
①加古川と周辺の山並み、白山・妙見山等を中心にした自然の豊かさを感じる人が多い。	74	65.5	15	13.3	24	21.2
②福谷公園、田高や福地の桜並木、門柳地域、丸山公園山頂の展望や黒田北谷池付近のホテルなど、評価されている。	67	59.3	20	17.7	25	22.1
③岡にある宮池の水質悪化(廃棄物の投棄、汚泥、悪臭等)が進行している。	67	59.3	5	4.4	40	35.5
④福谷公園や秋谷、土づくりセンター予定地付近での廃棄物の不法投棄がある。	41	36.3	4	3.5	68	60.2

## 5) 自治活動について

- ・今回の設問自体が、形に見えない事項であり、人によって集落での状況を見たり、地区レベルで見たりする人もあり、そうした結果として、それぞれの回答もそれぞれ異なっているように思われます。
- ・地域の人同士の関係やリーダー等の問題では、半分程度の人が否定的な見方をされていることに、注目すべき課題があるように思われます。

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①集落のまとまりやふるさと・わが町意識が強く、人と人との結びつきや隣人の顔が見える。	49	43.4	47	41.6	16	14.2
②地域の人の顔がわからなかったり、あいさつしない人もいる。	63	55.8	37	32.7	12	10.6
③老人会のパワーや青年団の活力が見られる。	33	29.2	52	46.0	28	24.8
④リーダー不足や町内活動への参加が少ない。	60	53.1	25	22.1	28	24.8
⑤地区内の団体やグループ活動で、相互扶助がなされている。	43	38.1	34	30.1	36	31.9
⑥団体やグループそれぞれが閉鎖的で、つながりがないのが気にかかる。	44	38.9	34	30.1	35	31.0

『黒田庄のええところ、こまったところ』 現状と問題点の整理

 いかしたい黒田庄のええところ GOOD		 見直したい黒田庄のこまったところ NO GOOD
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協の福祉送迎車が今もある</li> <li>・黒田庄の給食ボランティアが西脇に呼ばれた</li> <li>・ボランティアなどの協同作業がしやすい</li> <li>・大山病院が近くスタッフが地区のいきいきサロンにも参加</li> <li>・子育て学習センターは先進的と地域外からも高く評価されている</li> <li>・若い母親に連帯意識がある</li> <li>・子育て学習センターに参加する親が熱心</li> <li>・公立保育所があるため親子離れがしやすい</li> <li>・AEDが地域総合事務所に2台設置された</li> </ul>	市民生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉送迎車の老朽化</li> <li>・子育て学習センターに活気がない</li> <li>・子育て学習センターの人員不足</li> <li>・家は家といった親が多い。叱ってくれる親が少なくなった</li> <li>・子どもが少なく老人家庭が多い</li> <li>・高齢者の移動が困難</li> <li>・介護認定されず施設に入れないお年寄りが多い</li> <li>・障害者向けの施設が少ない</li> <li>・地域防災に不安</li> <li>・子どもの防犯組織ができていない</li> <li>・石原野尾谷池周辺の通学路が林道になっていて危険</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川流量を増やしているため加古川浸水のリスクは減っている</li> <li>・国道175号が貫通している。都会へのアクセスが良い</li> <li>・JR加古川線が走っている</li> <li>・上下水道本管工事が完了。ほとんどの家庭で接続済み</li> <li>・防災行政無線がある</li> <li>・マーケットが近い</li> <li>・地場産業の技術活用がある</li> <li>・黒田庄ビーフをはじめとした特産品や地域ブランドがある</li> <li>・農業振興が旧西脇市よりもすすんでいる</li> <li>・有機の里づくりがやりやすい</li> <li>・安全・安心な有機野菜づくりに取り組んでいる(こしひかり・山田錦・レタスなど)</li> <li>・農業者仲間に連帯感がある</li> <li>・地産地消の意識がある</li> <li>・フォルクスガーデンがある</li> <li>・喜多秋谷、黒田末谷公園といった里山がある</li> <li>・伝統が継承されている</li> <li>・黒田庄地区夏まつりがある</li> <li>・交流拠点施設「あつまっ亭」の住民組織の管理体制</li> <li>・雇用の場所が適当なところにある</li> <li>・過疎地域ではない</li> </ul>	基盤整備と産業経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加古川の増水が不安</li> <li>・黒田も浸水危険地区だ</li> <li>・道路が狭い</li> <li>・畑瀬橋が狭く大型バスが通れない</li> <li>・道路整備が遅れている</li> <li>・加古川両岸のアクセスが悪い</li> <li>・門柳みやまの里入り口が急斜面で危険</li> <li>・買い物の交通の便が悪い</li> <li>・高齢者の移動が困難</li> <li>・公共交通の整備が遅れている</li> <li>・地区内に店が少ない</li> <li>・バスが走っていない</li> <li>・福祉送迎車の地区外への迎えがない</li> <li>・旧西脇市と旧黒田庄をつなぐ路線バスがない</li> <li>・JRの利用者が少ない。便数も少ない</li> <li>・空き家があるが借り手がない</li> <li>・農地しかないため家が建てられない</li> <li>・一部で上下水道未接続家庭もある</li> <li>・石原開発地では公共上下水道が整備されていない</li> <li>・未整備の宅地開発がある</li> <li>・門柳みやまの里は地盤が弱く防災面に不安がある</li> <li>・黒田庄の話題が市内全体に広がりにくい</li> <li>・都会の人の農業体験への対応は負担が大きい</li> <li>・あつまっ亭の対面のプラットホームの管理が不十分</li> <li>・JR船町駅に駐車場がない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関心が高い</li> <li>・桜丘尚歯会の活動は90年以上続いている</li> <li>・桜丘地区では県民交流広場事業を活用している</li> <li>・隣保館にある郷土資料館「ゆくつち」への視察が多い</li> <li>・トレッキングコースがある</li> <li>・黒田里山道が整備された</li> <li>・日時計の丘公園オートキャンプ場がある</li> <li>・黒田庄ふれあいスタジアムがある</li> <li>・スポーツが盛ん</li> <li>・スポーツ少年団が6団体もある</li> <li>・野球やソフトボールだけでなく駅伝好きが多い</li> <li>・ゲートボールやグラウンドゴルフも盛んである</li> <li>・寺社仏閣がある</li> <li>・文化的、歴史的な財産が多い</li> <li>・蛭子神社のお祭り</li> <li>・前坂の大歳神社には北播最古の窯跡がある</li> <li>・人権意識が高い</li> </ul>	教育と文化・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちへの関心が薄い</li> <li>・黒田庄地区には人権教育推進協議会がない</li> <li>・地域に親しまれるハイキングコースが少ない</li> <li>・ふれあいスタジアムの駐車場が少ない</li> <li>・スタジアムでボールが山の中に入る</li> <li>・スタジアムの水はけが悪い</li> <li>・スポーツ少年団があるため、スポーツクラブには子どもが少ない</li> <li>・駅伝大会では警察の許可が厳しくなっている</li> <li>・地区対抗の少年野球がなくなった</li> <li>・スポーツ活動が弱くなっている</li> <li>・ふれあいスタジアムがあまり使われていない。特にテニスコート</li> <li>・福地の神社が傷んでいるが補修の財源がない</li> <li>・各地区で寺社仏閣の補修に苦慮</li> <li>・大門の十三重の塔は貴重だが私有地を通らないといけないためPRしにくい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然が多い</li> <li>・宮池には鴨が飛来する</li> <li>・宮池をお祭り前に地区で清掃している</li> <li>・宮池は防火水槽の役割もしている</li> <li>・福谷公園の桜がきれい</li> <li>・福谷公園にはクワガタがたくさんいる</li> <li>・田高の防災ステーションの桜がきれい</li> <li>・門柳川ではあまごのつかみ取りをしている</li> <li>・福地の堤防に桜並木がある</li> <li>・加古川が流れ、山には緑がある</li> <li>・丸山公園頂上からの見晴らし</li> <li>・せせらぎ街道はウォーキングやジョギングに最適</li> <li>・莊厳寺はもみじの名所。自然環境や景観がいい</li> <li>・北谷池にホテルが多い</li> <li>・白山・妙見山は兵庫名山100選に入っている</li> <li>・加古川がきれいになった</li> </ul>	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡の宮池の環境悪化(悪臭、ゴミ投棄、汚泥)</li> <li>・宮池での釣り</li> <li>・福谷公園の不法投棄</li> <li>・土づくりセンター建設予定地入り口周辺の不法投棄</li> <li>・河原へ降りられない</li> <li>・堤防の草が多く草刈が大変</li> <li>・子どもたちが川に行くことを禁止している</li> <li>・ホテルが少なくなった</li> <li>・開発地から流れ出る砂の影響か?</li> <li>・船町の土砂災害</li> <li>・秋谷周辺の山林への不法投棄</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人会にはパワーがある</li> <li>・活力ある青年団がある</li> <li>・人材がいる</li> <li>・個々の村でのまとまりがある</li> <li>・過去に合併がなく地区への思いが強い</li> <li>・蛭子神社では青年団と老人会が連携している</li> <li>・小苗の取り組みがすばらしい</li> <li>・地区住民の交流施設が整っている</li> <li>・夏休みには村を上げてのラジオ体操をしている</li> <li>・わが町意識がある</li> <li>・人と人との結びつきがある</li> <li>・隣の人の顔が見える</li> <li>・小さい地区なのでまとまりがよい</li> <li>・平和、平穏である</li> <li>・閉鎖的でない</li> <li>・地区(集落)内で平等である</li> <li>・地区活動により相互扶助ができている</li> </ul>	自治行財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーなどが町内の活動に参加しない</li> <li>・地区間の団体のつながりが弱い</li> <li>・各地区でのイベント情報のPR不足</li> <li>・屋間の消防隊員が少ない</li> <li>・あいさつができていない</li> <li>・お互いの目が気になる</li> <li>・地域内のつきあいをしない人がでてきた</li> <li>・地域の人の顔がわからない</li> <li>・危機感がない</li> <li>・地区の意識に閉鎖的なところがある</li> <li>・公共料金の負担が多い</li> <li>・すべてにおいて平均的である</li> <li>・世間が狭い</li> <li>・空き公共施設の利用がない</li> <li>・合併に伴いさみしさがある</li> <li>・花の無償配布が減り、まちかどの花壇の維持が大変になってきた</li> </ul>

※ワークショップで挙がった「ええところ」「わるいところ」といったメンバーの意見をまちの現状と課題として整理しました。

### 3. 黒田庄地区のまちづくり計画

#### (1) まちづくりの課題と目標

##### 1) まちづくりの課題

以下のまちづくりの課題は、行政頼みではなく、市民としてその参画、協働の方法が不可欠と思います。つまり、行政と市民との協働による課題解決への方策が、これからのまちづくりの土台にならなければならない、との認識があります。こういう視点から、当面している課題を以下のように整理してみました。

##### ① 少子化への対応と福祉送迎バスの存続

少子化への根本的な対策は、全国共通の課題ですが、黒田庄地区で取り組める様々な方法を模索していくことが重要です。それは、経済活動をはじめ、教育・文化、福祉活動などあらゆる分野での様々な取り組みによって、黒田庄地区が自然豊かで住みやすい“ふるさと”としての誇りを共有できる地域に発展していくことでしょう。子育て世代や高齢世代が、少しでも安心して暮らせる地域づくりに向けて、一人でも多くの人の協力・協同による取り組みを強めていくことがその発端ともいえます。具体的には、既存の子育て学習センターの積極的な活動や福祉送迎バスなど、これまで続けてこられた住民福祉の条件を基礎にして、新たな住民も参加、支援する方法を見出していくことが必要となっています。

##### ② 西脇との公共交通や内水対策等の生活基盤の拡充

市内の公共交通のあり方については、現在、住民代表も参加して検討されているようですが、その実現が待たれます。ただ、先の福祉送迎バスと市内公共交通がそれぞれ整備されていくのか、或いはそれらを組み合わせたシステムとして創設されるのか、今後、住民の意見を反映するように、その運営に住民が参画できるような積極的な方法が必要になっています。

また、加古川支流の内水対策等の拡充に関しては、今後も行政に要請していくことが必要でしょう。

##### ③ 耕畜連携による土づくりを基本にした環境保全型農業の推進

減科学肥料、減農薬栽培による米や野菜の生産グループも定着しつつあり、平成20年度より新たな組織づくりも検討されているようです。一方、肉用牛の糞尿を醗酵熟成させ、均一な良質堆肥を生産する土づくりセンターの整備が進んでいます。こうした動きが連携する事によって、食の安全が問われている今日、黒田庄の安全・安心を創出していく条件が整っていくことになり、循環型社会への道筋も見えてくるのではないのでしょうか。

##### ④ 地区住民が利用しやすいスポーツ施設の運営・管理方法の検討

スポーツ施設の利用料金など地区住民の利用が困難、との指摘があります。それは、施設の運営・管理方法と絡んでいると思われます。改めて、この施設の運営・管理のあり方と利用方法について、再検討する必要があるのではないのでしょうか。

##### ⑤ 宮池などの水質悪化や廃棄物の不法投棄など、環境資源保全への対応策

宮池などにみられるように水質悪化に関しては、長年にわたって問題にされてきましたが、今では、廃棄物等も投入されるなど、何らかの対応策が緊急になっています。その検討のためには、地元を中心にしながら、周囲や行政等による支援体制を検討していく必要があるように思います。

##### ⑥ 寺社等の改修、補修方策の検討

各集落にある寺社の老朽化や雨漏り等が指摘されています。これらは、長年にわたって継承されてきた村の象徴でもあり、その保存への願いでしょう。現在、そうした寺社の改修、保全への公的支援策は見当たりません。問題になっている地域の関係者の知恵と能力に期待する他ありません。いずれにしても何らかの方法を見出していく必要があります。

## 2) 今後のまちづくりの目標

以上のような課題を解決し、新たなまちづくりのための目標を以下のように設定することとします。

### “できることからはじめよう ふるさと黒田庄づくり”

今回のまちづくりへの取り組み(計画)は、だれもが、個々に応じて取り組める方向を示しています。その実現に向けて、住民一人ひとりが日頃から、自らの仕事に、家庭に、そしてふれあいに参加し行動することを通じて、新たなまちづくりへの道筋を見出ししていくことができると思います。

#### (2) 今後のまちづくりの取り組み(計画)

上記の目標を基本にしなが、地区住民が日々活動し、努力していくためのまちづくり計画(取り組み)として、以下のように設定します。これらの方向については、住民会議以外の人も含めたアンケートの結果も踏まえてまとめました。なお、こういう取り組み(計画)に対して、参加したい、との意向が多数寄せられたことは、今後のまちづくりへの期待が膨らむでしょう。

#### 1) 安心できる子育て環境を育成していくために

- ① 子育て支援拡充のために、高齢者やボランティアの知恵・能力を活かす工夫をする。
- ② 集落ごとに、見守り隊や遊び等の交流の場を確保する。
- ③ 集落や地区の交流・研修する機会を積極的につくっていく。

#### 2) 高齢者の暮らしと生きがいを、共につくるために

- ① 高齢者等の通院・買い物等のお出かけ支援体制(有償・無償ボランティア)をつくる。
- ② 集落ごとの趣味・娯楽等の活動を広げると共に、他地区との交流を展開する。
- ③ 日常の隣近所との付き合いや外出を促すために、一声運動などを行なう。

#### 3) 集落ごとの安全と安心を確保していくために

- ① 歩行者や自転車の安全を確保するために、集落ごとに危険箇所の点検を行なう。
- ② 震災や火災などに対応する自主防災体制づくりについて、集落単位で検討を進める。
- ③ 廃棄物の不法投棄等の見廻り隊を編成し、定期的に点検、監視活動を行なう。

#### 4) 集落ごとの特色ある農産物づくりのために

- ① 集落ごとの生産活動の取り組みを強め、地域に根ざした生産物づくりを目ざしていく。
- ② 廃棄物の資源的利用とリサイクル運動を展開する。

#### 5) スポーツ・文化活動を一層普及していくために

- ① スポーツ・文化活動の裾野を広げ、グループの連携や組織化を図っていく。
- ② ふれあいスタジアムは、地元の人たちが利用しやすい方法を検討する。
- ③ 文化活動グループの連携と継承の方法を検討していく。

#### 6) 地区の自然環境や歴史遺産を保全、育成していくために

- ① 里山景観や丘陵部の保全のために、トレッキングコースを拡充する。
- ② 身近な散策路の整備を検討する。
- ③ 神社仏閣の保存、修復は、檀家や氏子と集落との協力・協同の方法を模索する。
- ④ ホタル生息地付近の水生環境を保存しつつ、その環境維持の方策を研究する。

#### 7) 門柳川流域の多様な自然環境を活かすために

- ① 宮池の水質改善を進めるために、岡を中心とする支援、協力体制をつくる。
- ② 秋谷池付近は、里山としての修景保全に努める。
- ③ ふれあいスタジアム付近でのホタル復活のための条件や環境を検討する。
- ④ 認定コースを有するグラウンドゴルフ場づくりを、地元主体・協同体制で進めていく。

#### 8) まちづくりの支援を広げていくために

- ① ゆめバンクと協力、協同して、まちづくり活動支援の情報発信や交流会などを企画する。
- ② 福祉・環境のコーディネーターやボランティア養成のための研修会等を企画する。
- ③ 住民の能力・知恵・資金等を、まちづくり活動に活かす仕組みづくりを検討する。

#### 9) 行政への当面の要請課題

アンケート結果も参考にしながら以下のように設定します。これ以外の項目については、各集落での取り組みや今後の広がりを期待することとし、住民会議として当面重点的に取り組む項目に焦点を置いたものです。

- ① 国道 175 号バイパスや、県道、市道の整備促進
- ② 旧西脇と旧黒田庄や、市内各施設への移動のための地域公共交通の整備
- ③ 歩道整備や白線引き等、通行区分などの安全対策の充実
- ④ 加古川の治水対策の早期完了を踏まえて、支流の内水対策の推進
- ⑤ 「魚が食べられる清流・加古川」を目指した水質改善
- ⑥ 資源リサイクルの促進策と廃棄物減量対策の具体化



## 4. 今後のまちづくり行動計画

### (1) 今後のまちづくり活動指針

今後のまちづくりの計画(取り組み)を日常化していく指針は、以下のように考えられます。これは、だれもがまちづくりに取り組む心得のようなもので、特別の理解を必要とするものではありません。

#### ① 日頃の暮らしの中からまちづくりの芽を育てる。

まちづくりは、日頃から自分の住むまちや地域の中で、特別に取り組むものでもなく、地域の安全や食の安全・安心への関心さえあれば、始められるものです。ただ、一人で取り組むには、大変さや面倒くささがありますから、誰か知り合いや友人・知人と一緒に始めることができれば十分だと思います。

#### ② グループや集落を基礎にしたまちづくり活動や事業に広げる。

できれば、同じ集落や地域の方と一緒に取り組めば、話の共通点もあり、お互いの関心や付き合いも広がるメリットも生まれるでしょう。また、集落内の状況を知り合うことにもなるでしょう。

#### ③ 黒田庄の自然や歴史、伝統等の資源を、共に学び、共に活用する。

このテーマは、地域の歴史、文化といった分野に関心を有する人たちが中心となって、地区や地域の歴史や遺産といった事項を、後世に継承していくこととなります。また、そういうグループで、お互いに研鑽、研修ができれば、一つの文化活動として継承されていくことにもなるでしょう。

#### ④ 住民の連携と協力を下に、行政との協力・協働の関係を築く。

自分たちだけで取り組めるまちづくりも少なくありませんが、できることであれば、行政と協力・協働していくことで、広報や情報収集などの支援が想定できます。そのためには、個人で対応するよりは、グループや団体等の連携する組織的対応がより望ましい、といえるでしょう。

### (2) 行動計画

住民の一人一人が取り組んでいく事柄と方向を、「私たちが黒田庄でしたいこと」課題解決のためのアクションや実施主体の目標として整理、提案します。ここに提案されていることは、今回のまちづくり策定部会で出された意見を、一人でできることから、行政に要請することまで、課題の広がりや対応策なども考慮して提案しているものです。ただ、ここに提案されていることだけでなく、こうした提案をヒントに、自分で考えたことを行なうことも十分まちづくりに貢献していくものと思います。

福祉や文化・教育、或いは産業などの分野にこだわることなく、日頃の暮らしの中での活動や行動をまちづくりという意識で取り組むかどうか、が重要のように思われます。仕事を順調に進めていくという経済活動から、住まいの周りの安全や環境への点検・監視、或いは隣の子どもや高齢者への気配りと気遣い、といったことが、まちづくりの原点ではないか、という問題提起なのです。

『私たちが黒田庄でしたいこと』 課題解決のためのアクション 実施主体と目標の整理

※ワークショップで上げられた具体策について実施目標と主体別に整理しました。

	今すぐになりたいこと right now	2～3年でしたいこと a couple of years	いつかはしたいこと future
 住民一人 できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと接する機会を増やす</li> <li>文化財や歴史を勉強する</li> <li>監視員の腕章をつけてウォーキングする</li> <li>買い物袋を持参する</li> <li>高齢者夫婦や独居老人へ声かけをする</li> <li>外出できない人に手をかす</li> <li>生活弱者へ配慮する</li> <li>子育て経験者が若いお母さんにアドバイス</li> <li>ライフサイクルを考えるようにする</li> <li>親同士のつながりを持つ</li> <li>高齢者の買い物を手伝う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落ごとにボランティアグループを作る</li> <li>地域の子育てを見守る</li> <li>家庭内で高齢者を大切にすることを育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有償無償にかかわらず今のボランティアの活力を絶やさない</li> </ul>
 グループで できること (NPOや企業など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者を病院へ送迎するボランティア育成</li> <li>地域で廃品回収に取り組む</li> <li>自主防災の強化(連絡救助体制)</li> <li>子育て相談窓口を保護者で作る</li> <li>AED活用法の徹底周知</li> <li>生涯スポーツに地域で取り組む</li> <li>子どもとお年寄りの交流の場を持つ</li> <li>楠丘小学校区での地域づくり</li> <li>シニア料理教室や男の料理教室開催</li> <li>歴史を学ぶ会を開催</li> <li>山野の専門家を招いたまち歩き</li> <li>各集落のイベントを合同に</li> <li>農道の植木</li> <li>渋柿の活用を考える</li> <li>おいしい米の販売など有機農業の推進</li> <li>夏祭りの活性化 男性も踊れる音頭の認定</li> <li>買い物袋を環境負荷の少ないものに</li> <li>消防協力員と連携した防災体制</li> <li>住民による消火訓練の徹底</li> <li>障害者や高齢者への連絡体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間による有償輸送サービスの検討</li> <li>NPO等による移動サービスの確立</li> <li>地域団体(老人会等)の資金を使った環境整備</li> <li>集落単位の送迎拠点施設づくり</li> <li>ボランティア等のNPOを設立</li> <li>火災警報器の共同設置</li> <li>ウォーキングしている人と連携した下校時の迎えグループづくり</li> <li>文化協会に代わる組織づくり</li> <li>小売店が連携して町内に定期的に出店</li> <li>大門から喜多地区へのスーパー誘致</li> <li>織物工場跡地の活用</li> <li>播州織の技術活用</li> <li>大きな柱になるものを作って実施し各地区と連携したイベントにする</li> <li>集落ごとでの文化祭の開催</li> <li>兵主神社秋祭りの活用</li> <li>スポーツクラブを中心とした町民体育祭</li> <li>黒田庄史の再版</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>婦人会に代わるボランティアの育成</li> <li>民間の福祉施設の充実による雇用拡充</li> <li>観光スポットを活用したコミュニティビジネス</li> <li>集落間の交流</li> <li>地域を超えたNPO組織づくり</li> <li>自主防災組織の構築</li> <li>災害ボランティアセンターの確立</li> </ul>
 行政と一緒に できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>社協の福祉送迎車対象外の人を支援</li> <li>既存の福祉サービス・施設を周知し紹介</li> <li>民間活力を導入して健康活動を推進する</li> <li>保健センターの利活用を考える</li> <li>子育て学習センターの活動を他地区へ</li> <li>生涯スポーツの指導者育成</li> <li>総合運動公園の利活用を検討</li> <li>グラウンドゴルフの認定コースづくりに着手</li> <li>黒田庄の歴史ボランティア登録</li> <li>くすのき、あゆみ保育園間の交流 幼稚園や小学校との交流</li> <li>町内一周駅伝大会の継続</li> <li>人権啓発の取り組み</li> <li>農業用ポンプ施設の冬季活用(大門、大伏)</li> <li>みやまの里への緊急車両の進路確保</li> <li>国道175号線バイパスのルート決定を要望</li> <li>都会の人への田畑、空家の照会サービス</li> <li>防災ステーション・モニュメント活用</li> <li>大門十三重塔への進入路確保</li> <li>田園空間博物館へのサテライト登録</li> <li>喜多天満宮の貴重な土塀の確保</li> <li>庵谷の休憩所の屋根に藤棚を整備</li> <li>保健センター内浴場の活用を検討</li> <li>昼間の消防体制強化(女性組織の育成など)</li> <li>地区まちづくり応援プログラムを活用</li> <li>県民交流広場事業の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミバス等の移動対策(大山病院を参考に)</li> <li>高齢者の買い物送迎車</li> <li>ボランティアやNPOの育成</li> <li>高齢者の生きがいづくり(指導者の確保と公共施設利用)</li> <li>高齢者福祉対策のコーディネーター確保</li> <li>地域総合事務所など行政依存体質からの脱却</li> <li>ハイキングコースの整備</li> <li>グラウンドゴルフコース整備の財源確保</li> <li>不法投棄を監視する巡回車(巡回隊)を組織</li> <li>環境保全ボランティアの育成</li> <li>身近な食料品店の存続支援</li> <li>低地への総合的対策</li> <li>門柳池までの道路拡幅</li> <li>黒田県道交差点の信号対策</li> <li>船町口駅～小苗、田高～桜丘小の通学路対策</li> <li>畜産団地の入り口の信号設置検討</li> <li>喜多の墓地前バイパスの安全対策</li> <li>みやまの里の上下水道対策</li> <li>農作物加工工場の設置</li> <li>蓬萊峠の整備</li> <li>寺社仏閣や黒田庄の歴史についての検定試験</li> <li>市の文化財指定への働きかけ</li> <li>いかに下り大会の復活検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民同士、住民と専門機関とのコーディネート体制を確立する</li> <li>人材や資源のコーディネート</li> <li>認定子ども園を視野に入れた活動</li> <li>県道黒田庄滝野線の一部バイパス化促進</li> <li>市街地の活性化、コンパクトシティからサテライトシティへ</li> <li>肥沃な土地を活用した特産開発</li> <li>環境保全型農業の特色を強める</li> <li>子どもたちが安心して川遊びができる体制づくり</li> <li>遊休施設の活用推進</li> <li>今の時代にあった相互扶助制度の検討</li> <li>老後を安心して暮らせるまちづくり</li> </ul>
 行政におまかせ したいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉送迎車の継続</li> <li>12月作成の市の交通体系方針を配布</li> <li>保育園送迎バスの空き時間の活用を検討</li> <li>ボランティア養成講座</li> <li>出産祝い金の支給を増す</li> <li>リハビリを兼ねた健康機器を保健センターに導入</li> <li>子どもの下校時に音楽を流し見守りを呼びかける</li> <li>加古川堤防の嵩上げ(田高、船町)</li> <li>大雨、洪水時の川代ダムの放流を要望</li> <li>地区内河川改修の全体計画を住民に説明</li> <li>旧黒田庄の農業を西脇市のモデルに</li> <li>スポーツ指導の行政支援</li> <li>ごみ収集方法の変更について啓発を徹底</li> <li>西沢や福地に浸水防止用のポンプアップ施設を検討</li> <li>荘厳寺の説明看板の付け替え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援ネットワークへの行政支援</li> <li>コミバスよりも小規模な黒田庄のあり方を拡充</li> <li>町内の保健医療サービスの紹介</li> <li>医師の確保と支援</li> <li>学童・延長保育の検討</li> <li>喜多前坂黒田井堰の改修</li> <li>黒田庄滝野線の福地踏切の拡幅</li> <li>畑瀬橋からの緊急地方道に歩道設置</li> <li>田高の国道両側に商工業ゾーンを設定</li> <li>農作物加工工場の設置</li> <li>福祉機器を増設し保健センターを活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加古川堤防の道路拡幅</li> <li>国道175号線の拡幅と歩道整備</li> <li>蒲江～福地、大伏～喜多の架橋</li> <li>商工業ゾーンの地域核を南北に公害のない企業を誘致したい</li> <li>市街化区域をまとめる必要がある</li> <li>災害に弱い地域の改善計画</li> </ul>

## 5. 土地利用のフレーム

今回策定した計画の内容や項目(取り組み)を進めていくためには、黒田庄地区のまちの姿を維持・保全・活用していくことは、私たち住民が代々受け継いできた“ふるさと”を後世に継承していく骨格であり、日々の暮らしの土台ともなっています。

以下に、そのための土地利用のフレームを提案します。この提案は、住民と行政による協働によるまちづくりの枠組みとして、それぞれの区域の活用、育成、或いは保全という方法で、土地利用や建物の利用・管理、或いは運用していくことが必要になるでしょう。

### (1) まちの特徴を活かす土地利用のゾーニング

地区の特徴を活かすために、以下のようなゾーニングに区分します。(次図 参照)

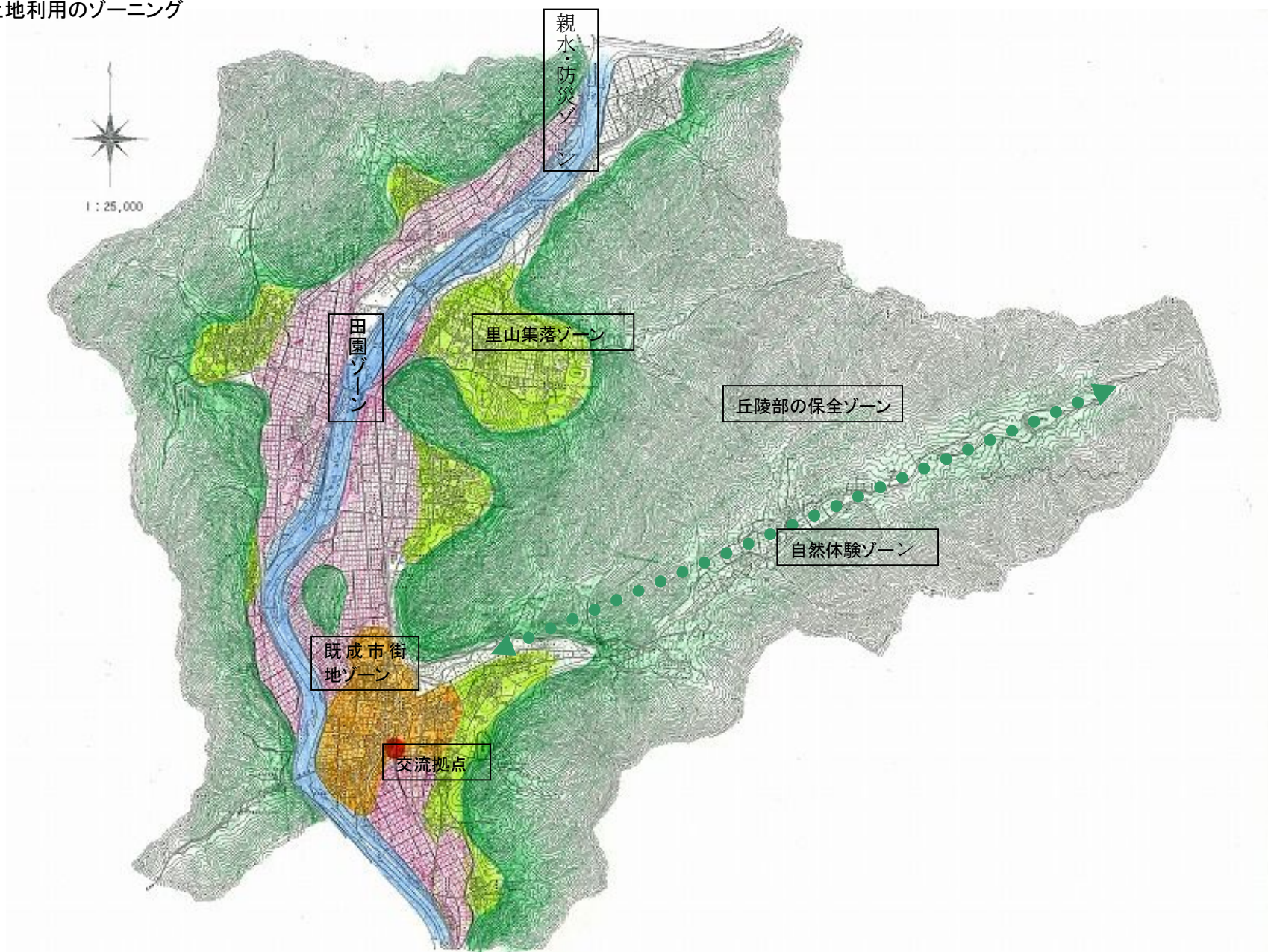
- ① 地区の骨格をなしている丘陵部の保全ゾーン
- ② 加古川の親水・防災環境ゾーン
- ③ 丘陵部付近に散在する里山集落ゾーン
- ④ JR加古川線沿いに延びる既成市街地ゾーン
- ⑤ 加古川沿いの田園ゾーン(生産地と集落)
- ⑥ 宮池～門柳池付近の自然体験ゾーン
- ⑦ 交流拠点(黒田庄駅)

### (2) ゾーニングに対応した適切な維持、管理・誘導方法の検討

上記のような黒田庄地区の土地利用を実現していく方法として、ルールや法令等による規制或いは誘導が考えられます。具体的には、都市計画区域として一定の法的制限区域の指定、或いは兵庫県の子条例による区域毎の誘導等、といった制度や方法があります。そのためには、地区や集落ごとの土地利用や建築物等の状況、或いは農地・山林或いは里山等の状況等の現状を踏まえて、今後の見通しや関係者の意見等を踏まえた、それぞれの区域のあり方を示す整備計画の策定が必要になってきます。

今回の土地利用のゾーニングの提案を機会に、こうした土地利用や建築物等の規制・誘導のあり方について検討し、黒田庄地区の自然や歴史を含めて、“ふるさと黒田庄”を継承していくための、維持・管理、及び誘導等の方法を検討していく必要があると思われます。

図 土地利用のゾーニング



## 資料

- 1 黒田庄地区まちづくり計画策定の経過
- 2 アンケート調査票
- 3 黒田庄地区まちづくり計画に関するアンケート結果

資料1 黒田庄地区まちづくり計画策定の経過

日時	部会等	主要議題項目
平成18年7月20日	第1回部会	○正副部会長及び正副分科会長の選出 ○計画策定アドバイザー紹介 ○地区まちづくり計画策定の概要説明 ○今後の進め方
9月7日	第2回部会	○ワークショップ/地区の現状と課題について意見交換 ○各分科会から報告 ○アドバイザーからコメント
10月12日	第3回部会	同上
11月16日	第4回部会	同上
12月15日	第5回部会	同上
平成19年1月25日	第6回部会	○ワークショップ/健康、福祉、子育てについて意見交換 ○各分科会から報告 ○アドバイザーからコメント
2月15日	第7回部会	○ワークショップ/生活、環境、安心・安全対策、公共施設活用について意見交換 ○各分科会から報告 ○アドバイザーからコメント
3月15日	第8回部会	○ワークショップ/教育、文化、スポーツについて意見交換 ○各分科会から報告 ○アドバイザーからコメント
6月6日	第9回部会	○正副部会長及び正副分科会長の選出 ○ワークショップ/産業、経済、活性化について意見交換 ○各分科会から報告
7月7日	第10回部会	○「まち歩き」の概要説明 ○2班に分かれて「まち歩き」 ○課題等の整理（巡検箇所を地図上に記入整理） ○班ごとに発表 ○講評
8月9日	第11回部会	○ワークショップ/道路・河川等の基盤、防災上の課題及び丘陵部や史跡・自然環境の保全・育成について ○各分科会から報告 ○アドバイザーからコメント
9月21日	第12回部会	○ワークショップ/まちづくりの課題整理について ○各分科会から報告 ○アドバイザーからコメント
10月16日	第13回部会	○ワークショップ/まちづくりの課題整理について ○各分科会から報告 ○アドバイザーからコメント
11月14日	第14回部会	同上
12月18日	第15回部会	○ワークショップ/アンケート調査の方法及びアンケート項目について ○各分科会から報告 ○アドバイザーからコメント
平成20年1月22日	第16回部会	○アンケート及びまちづくり計画骨子の意見交換
1月31日		アンケート調査実施
2月27日	第17回部会	○アンケート調査結果の報告 ○まちづくり計画素案等の意見交換 ○アドバイザーからコメント
3月19日	第18回部会	○まちづくり計画書の意見交換
3月 日		まちづくり計画書説明会（まちづくり住民会議）
3月31日		市長へ提出

資料2 アンケート調査票

アンケート調査ご協力をお願い

黒田庄地区まちづくり住民会議まちづくり計画策定部会では、一昨年以來、これからの住民主体のまちづくりのあり方や方向について、検討を重ねてきました。そして、この3月を目途に、西脇市長に提案する予定です。

そこで、これまで策定部会で検討してきた、現在の黒田庄地区の特徴と問題点、今後私たちが取り組むまちづくりの方向や目標をまとめるにあたりまして、これまで住民会議に参加された方々(新旧)に、高齢者、女性、若い世代の一部も加わっていただき、皆様のご意見やご提案をいただくために、このアンケートをお願いすることにいたしました。

今回策定するまちづくり計画(取り組み)は、行政の計画としてではなく、黒田庄地区に住む市民として、取り組みやすい課題と方向としてまとめたいと考えます。

是非、皆様のご協力をお願いいたします。

平成20年1月31日

黒田庄地区まちづくり住民会議

まちづくり計画策定部会長 森脇 善壽

このアンケートは、2月12日(火)までに、同封の返信用封筒にてご返信願います。

西脇市 黒田庄地区まちづくり計画に関するアンケート

問1 現在の黒田庄地区のまちづくりについて、以下のような特徴と問題点が指摘されますが、あなたは、それについてどのように思いますか。

それぞれの右欄に 1 そう思う 2 そうは思わない 3 わからない でお答え下さい。

1)市民生活と福祉について

①子どもが少なく、老人だけの家庭が増えている。	
②子育て学習センターは、参加する親も熱心で連帯感もあり、地域外からも高く評価されている。	
③子育て学習センターの人員不足は否定できない。	
④福祉送迎車は老朽化しているが存続する必要がある。	
⑤福祉ボランティアの活動は活発になっている。	
⑥地域の子どもを守る気風が薄くなっている。	

2)基盤整備と産業経済について

①都会へのアクセスは悪くない。	
②西脇～黒田庄間の道路整備や公共交通の整備が遅れており、買い物の方が悪い。	
③加古川の増水時に、浸水危険区域が見られる。	
④地区の中には、地すべりや崩落など、防災上不安や心配のある区域が見られる。	
⑤農業仲間の連帯感や地産地消への意識もあって、それに必要な技術が活用されている。	
⑥有機野菜づくりにも取り組む集落もあり、旧西脇よりも進んでいるように思う。	
⑦秋谷、末谷公園付近の里山景観をはじめ、それぞれの地区の伝統が継承されている。	

3)教育、文化・スポーツについて

①父母の間に、子どもに対して過保護や干渉しすぎる傾向がある。	
②野球やソフトボールだけでなく、駅伝などのスポーツが盛んで、それらの施設は整っている。	
③もっと多くの地区の人が、スポーツ施設を利用しやすい料金や運営方法を考える必要がある。	
④白山・妙見山を中心とするトレッキングコースは整備されている。	
⑤地域に親しまれる日常利用できる散策路等が少ない。	
⑥ゲートボールやグラウンドゴルフも盛んで、グラウンドゴルフ場整備への期待もある。	
⑦歴史的財産（神社仏閣等）があるが、それらの維持及び改修費用が不足している。	

4)自然環境について

①加古川と周辺の山並み、白山・妙見山等を中心にした自然の豊かさを感じる人が多い。	
②福谷公園、田高や福地の桜並木、門柳地域、丸山公園山頂の展望や黒田北谷池付近のホテルなど、評価されている。	
③岡にある宮池の水質悪化（廃棄物の投棄、汚泥、悪臭等）が進行している。	
④福谷公園や秋谷、土づくりセンター予定地付近での廃棄物の不法投棄がある。	

5)自治活動について

①集落のまとまりやふるさと・わが町意識が強く、人と人の結びつきや隣人の顔が見える。	
②地域の人々の顔がわからなかったり、あいさつしない人もいる。	
③老人会のパワーや青年団の活力が見られる。	
④リーダー不足や町内活動への参加が少ない。	
⑤地区内の団体やグループ活動で、相互扶助がなされている。	
⑥団体やグループそれぞれが閉鎖的で、つながりがないのが気にかかる。	

問2 黒田庄地区の住民会議が、自らのまちづくり計画を作成していますが、以下のような課題と今後の取り組みについて、あなたはどのように思いますか。またそれぞれの取り組みに対して、あなたは参加する意思がありますか。

下記表内に示す計画（取り組み）の各項目毎の、右欄A・Bに、回答区分の1・2・3でご記入下さい。他の意見や提案がある場合は、各問下段の（ ）内にご記入下さい。

－回答区分－

A)どのように思いますか － 1 そう思う 2 そうは思わない 3 わからない

B)参加の意思はありますか－ 1 できれば参加したい 2 参加しない 3 何ともいえない

1)安心できる子育て環境を育成していくために

A B

①子育て支援拡充のために、高齢者やボランティアの知恵・能力を活かす工夫をする。		
②集落ごとに、見守り隊や遊び等の交流の場を確保する。		
③集落や地区の交流・研修する機会を積極的につくっていく。		

○その他の意見等（ ）

2)高齢者の暮らしと生きがいを、共につくるために

A B

①高齢者等の通院・買い物等のお出かけ支援体制（有償・無償ボランティア）をつくる。		
②集落ごとの趣味・娯楽等の活動を広げると共に、他地区との交流を展開する。		
③日常の隣近所との付き合いや外出を促すために、一声運動などを行なう。		

○その他の意見等（ ）

3)集落ごとの安全と安心を確保していくために

A B

①歩行者や自転車の安全を確保するために、集落ごとに危険箇所の点検を行なう。		
②震災や火災などに対応する自主防災体制づくりについて、集落単位で検討を進める。		
③廃棄物の不法投棄等の見廻り隊を編成し、定期的に点検、監視活動を行う。		

○その他の意見等（ ）

4)集落ごとの特色ある農産物づくりのために

A B

①集落ごとの生産活動の取り組みを強め、地域に根ざした生産物づくりを目ざしていく。		
②廃棄物の資源的利用とリサイクル運動を展開する。		

○その他の意見等（ ）

5)スポーツ・文化活動を一層普及していくために

A B

①スポーツ・文化活動の裾野を広げ、グループの連携や組織化を図っていく。		
②ふれあいスタジアムは、地元の人たちが利用しやすい方法を検討する。		
③文化活動グループの連携と継承の方法を検討していく。		

○その他の意見等（ ）

6)地区の自然環境や歴史遺産を保全、育成していくために

A B

①里山景観や丘陵部の保全のために、トレッキングコースを拡充する。		
②身近な散策路の整備を検討する。		
③寺社仏閣の保存、修復は、檀家や氏子と集落との協力・協同の方法を模索する。		
④ホテル生息地付近の水生環境を保存しつつ、その環境維持の方策を研究する。		

○その他の意見等（ ）

7)門柳川流域の多様な自然環境を活かすために

A B

①宮池の水質改善を進めるために、岡を中心とする支援、協力体制をつくる。		
②秋谷池付近は、里山としての修景保全に努める。		
③ふれあいスタジアム付近でのホテル復活のための条件や環境を検討する。		
④認定コースを有するグラウンドゴルフ場づくりを、地元全体・協同体制で進めていく。		

○その他の意見等（ ）

8)まちづくりの支援を広げていくために

A B

①ゆめバンクと協力、協同して、まちづくり活動支援の情報発信や交流会などを企画する。		
②福祉・環境のコーディネーターやボランティア養成のための研修会等を企画する。		
③住民の能力・知恵・資金等を、まちづくり活動に活かす仕組みづくりを検討する。		

○その他の意見等（ ）

9)住民会議として、行政に要請していくまちづくりの課題として、以下のような項目を考えています。下記項目の中で、あなたが早期に実現を望む項目3つまで選んで番号に○をつけて下さい。

- 1 国道175号バイパスや、県道、市道の整備促進
- 2 歩道整備や白線引き等、通行区分などの安全対策の充実
- 3 JR加古川線踏切の安全対策
- 4 加古川の治水対策の早期完了を踏まえて、支流の内水対策の推進
- 5 資源リサイクルの促進策と廃棄物減量対策の具体化
- 6 防災センターの開放利用策の検討
- 7 旧西脇と旧黒田庄や、市内各施設への移動のための地域公共交通の整備
- 8 まちづくり活動強化のための“ゆめバンク”の拡充と運営等の支援
- 9 「魚が食べられる清流・加古川」を目指した水質改善

最後に、回答いただいたあなたの世代や性別等を○で囲み、集落名をご記入ください。

- 世代 (20才代・30才代・40才代・50才代・60才代・70才以上)
- 性別 (男・女)
- あなたの集落は( )

ありがとうございました。今後の黒田庄地区のまちづくりについて、お考えやお気づきの点など、下記欄にお書きいただければ、この計画に反映させるように努める所存です。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
---

<問い合わせ先> 黒田庄地域総合事務所 地域振興課 TEL 28-2121

### 資料3 黒田庄地区まちづくり計画に関するアンケート結果

○調査対象者数 178名 ○回答者数 113名 ○回収率 63.5% 平成20年2月実施

問1 現在の黒田庄地区のまちづくりについて、以下のような特徴と問題点が指摘されていますが、あなたは、それについてどのように思いますか。

#### 1) 市民生活と福祉について

	そう思う		そうは思わない		わからない	
①子どもが少なく、老人だけの家庭が増えている。	94名	83.2%	9名	8.0%	9名	8.0%
②子育て学習センターは、参加する親も熱心で連帯感もあり、地域外からも高く評価されている。	46名	40.7%	14名	12.4%	53名	46.9%
③子育て学習センターの人員不足は否定できない。	39名	34.5%	15名	13.3%	58名	51.3%
④福祉送迎車は老朽化しているが存続する必要がある。	89名	78.8%	10名	8.8%	13名	11.5%
⑤福祉ボランティアの活動は活発になっている。	28名	24.8%	32名	28.3%	52名	46.0%
⑥地域の子どもを守る気風が薄くなっている。	33名	29.2%	60名	53.1%	19名	16.8%

#### 2) 基盤整備と産業経済について

	そう思う		そうは思わない		わからない	
①都会へのアクセスは悪くない。	36名	31.9%	66名	58.4%	9名	8.0%
②西脇～黒田庄間の道路整備や公共交通の整備が遅れており、買い物の便が悪い。	75名	66.4%	33名	29.2%	5名	4.4%
③加古川の増水時に、浸水危険区域が見られる。	83名	73.5%	6名	5.3%	24名	21.2%
④地区の中には、地すべりや崩落など、防災上不安や心配のある区域が見られる。	65名	57.5%	15名	13.3%	32名	28.3%
⑤農業仲間の連帯感や地産地消への意識もあって、それに必要な技術が活用されている。	18名	15.9%	35名	31.0%	59名	52.2%
⑥有機野菜づくりにも取り組む集落もあり、旧西脇よりも進んでいるように思う。	47名	41.6%	15名	13.3%	50名	44.2%
⑦秋谷、末谷公園付近の里山景観をはじめ、それぞれの地区の伝統が継承されている。	57名	50.4%	19名	16.8%	36名	31.9%

#### 3) 教育、文化・スポーツについて

	そう思う		そうは思わない		わからない	
①父母の間に、子どもに対して過保護や干渉しすぎる傾向がある。	74名	65.5%	24名	21.2%	14名	12.4%
②野球やソフトボールだけでなく、駅伝などのスポーツが盛んで、それらの施設は整っている。	50名	44.2%	42名	37.2%	21名	18.6%
③もっと多くの地区の人が、スポーツ施設を利用しやすい料金や運営方法を考える必要がある。	83名	73.5%	14名	12.4%	16名	14.2%
④白山・妙見山を中心とするトレッキングコースは整備されている。	38名	33.6%	17名	15.0%	57名	50.4%
⑤地域に親しまれる日常利用できる散策路等が少ない。	55名	48.7%	40名	35.4%	17名	15.0%
⑥ゲートボールやグラウンドゴルフも盛んで、グラウンドゴルフ場整備への期待もある。	55名	48.7%	18名	15.9%	40名	35.4%
⑦歴史的財産（神社仏閣等）があるが、それらの維持及び改修費用が不足している。	58名	51.3%	11名	9.7%	43名	38.1%

#### 4) 自然環境について

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	名	%	名	%	名	%
①加古川と周辺の山並み、白山・妙見山等を中心にした自然の豊かさを感じる人が多い。	74名	65.5%	15名	13.3%	24名	21.2%
②福谷公園、田高や福地の桜並木、門柳地域、丸山公園山頂の展望や黒田北谷池付近のホテルなど、評価されている。	67名	59.3%	20名	17.7%	25名	22.1%
③岡にある宮池の水質悪化（廃棄物の投棄、汚泥、悪臭等）が進行している。	67名	59.3%	5名	4.4%	40名	35.5%
④福谷公園や秋谷、土づくりセンター予定地付近での廃棄物の不法投棄がある。	41名	36.3%	4名	3.5%	68名	60.2%

#### 5) 自治活動について

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	名	%	名	%	名	%
①集落のまとまりやふるさと・わが町意識が強く、人と人との結びつきや隣人の顔が見える。	49名	43.4%	47名	41.6%	16名	14.2%
②地域の人々の顔がわからなかったり、あいさつしない人もいる。	63名	55.8%	37名	32.7%	12名	10.6%
③老人会のパワーや青年団の活力が見られる。	33名	29.2%	52名	46.0%	28名	24.8%
④リーダー不足や町内活動への参加が少ない。	60名	53.1%	25名	22.1%	28名	24.8%
⑤地区内の団体やグループ活動で、相互扶助がなされている。	43名	38.1%	34名	30.1%	36名	31.9%
⑥団体やグループそれぞれが閉鎖的で、つながりがないのが気にかかる。	44名	38.9%	34名	30.1%	35名	31.0%

問2 黒田庄地区の住民会議が、自らのまちづくり計画を作成していますが、以下のような課題と今後の取り組みについて、あなたはどのように思いますか。またそれぞれの取り組みに対して、あなたは参加する意思がありますか。

－なお、その他の回答としてご記入された内容を集計票の下に整理しています。－

#### 1) 安心できる子育て環境を育成していくために

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	名	%	名	%	名	%
①子育て支援拡充のために、高齢者やボランティアの知恵・能力を活かす工夫をする。	94名	83.2%	5名	4.4%	13名	11.5%
	52名	46.0%	10名	8.8%	48名	42.5%
②集落ごとに、見守り隊や遊び等の交流の場を確保する。	77名	68.1%	14名	12.4%	22名	19.5%
	65名	57.5%	12名	10.6%	33名	29.2%
③集落や地区の交流・研修する機会を積極的につくる。	79名	69.9%	7名	6.2%	27名	23.9%
	60名	53.1%	10名	8.8%	40名	35.4%

○もう一度皆で考え子どもの安全

○偏らないやり方がよい。

○家で静かな生活を良とする者に外出を促すのは如何なものか…?

○集落ごとの交流は黒田庄においてはまずまずだと思うが、他地区と協働・協力関係及び全体の組織としての活動網を整備すべき（50代男性）

○小学校の登下校など子どもだけでは危ないところ（人通りが少ない等）があると思います。（20代女性）

## 2)高齢者の暮らしと生きがいを、共につくるために

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	できれば参加したい		参加しない		何ともいえない	
①高齢者等の通院・買い物等のお出かけ支援体制(有償・無償ボランティア)をつくる。	87名	77.0%	11名	9.7%	14名	12.4%
	49名	43.4%	17名	15.0%	42名	37.2%
②集落ごとの趣味・娯楽等の活動を広げてと共に、他地区との交流を展開する。	75名	66.4%	13名	11.5%	21名	18.6%
	49名	43.4%	14名	12.4%	46名	40.7%
③日常の隣近所との付き合いや外出を促すために、一声運動などを行なう。	73名	64.6%	15名	13.3%	23名	20.4%
	65名	57.5%	7名	6.2%	38名	33.6%

- 参加しないのではなく参加できない。(50代男性)
- 車の運転が出来ません。(50代女性)
- 「集落ごと」ではなくてもいいと思います。(20代女性)
- この項目については高齢者自身が提案した内容の設問が必要 (70代女性)

## 3)集落ごとの安全と安心を確保していくために

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	できれば参加したい		参加しない		何ともいえない	
①歩行者や自転車の安全を確保するために、集落ごとに危険箇所の点検を行う。	98名	86.7%	4名	3.5%	8名	7.1%
	73名	64.6%	9名	8.0%	28名	24.8%
②震災や火災などに対応する自主防災体制づくりについて、集落単位で検討を進める。	98名	86.7%	6名	5.3%	8名	7.1%
	65名	57.5%	4名	3.5%	39名	34.5%
③廃棄物の不法投棄等の見廻り隊を編成し、定期的な点検、監視活動を行う。	85名	75.2%	10名	8.8%	16名	14.2%
	46名	40.7%	10名	8.8%	51名	45.1%

- 不法投棄の見回りは行政及び警察でないと危険 (50代男性)
- 地域力の低下は深刻。プライバシー保護を理由に何事もおごなりのように思う。過疎地域ならばこそ人を救うには人しかいない。大地震時の教訓の組織体制を黒田庄から生み出したい。(70代女性)

## 4)集落ごとの特色ある農産物づくりのために

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	できれば参加したい		参加しない		何ともいえない	
①集落ごとの生産活動の取り組みを強め、地域に根ざした生産物づくりを目ざしていく。	68名	60.2%	9名	8.0%	34名	30.1%
	33名	29.2%	17名	15.0%	57名	50.4%
②廃棄物の資源的利用とリサイクル運動を展開する。	81名	71.7%	8名	7.1%	22名	19.5%
	50名	44.2%	15名	13.3%	43名	38.1%

- リサイクルの現状を考えると本当にリサイクルに活用されている資源やリサイクル施設はあるのか？充足されているのか。リサイクルは個人で運動としてやっても output はどうかな？ (50代男性)
- 現状の結果報告を公表してほしい。(60代男性)
- 営農指導の核となる農協の弱体化を問題にしてほしい。(70代女性)

## 5)スポーツ・文化活動を一層普及していくために

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	できれば参加したい		参加しない		何ともいえない	
①スポーツ・文化活動の裾野を広げ、グループ連携や組織化を図っていく。	77名	68.1%	7名	6.2%	26名	23.0%
	44名	38.9%	10名	8.8%	55名	48.7%
②ふれあいスタジアムは、地元の人たちが利用しやすい方法を検討する。	88名	77.9%	4名	3.5%	19名	16.8%
	44名	38.9%	10名	8.8%	53名	46.9%
③文化活動グループの連携と継承の方法を検討していく。	70名	61.9%	6名	5.3%	34名	30.1%
	34名	30.1%	11名	9.7%	62名	54.9%

- 黒田庄地区のスポーツ、文化団体の周知について情報がほしい。(70代女性)

6)地区の自然環境や歴史遺産を保全、育成していくために

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	できれば参加したい		参加しない		何ともいえない	
①里山景観や丘陵部の保全のために、トレッキングコースを拡充する。	67名	59.3%	14名	12.4%	26名	23.0%
	37名	32.7%	17名	15.0%	55名	48.7%
②身近な散策路の整備を検討する。	77名	68.1%	17名	15.0%	15名	13.3%
	43名	38.1%	13名	11.5%	53名	46.9%
③寺社仏閣の保存、修復は、檀家や氏子と集落との協力・協同の方法を模索する。	67名	59.3%	12名	10.6%	29名	25.7%
	47名	41.6%	15名	13.3%	49名	43.4%
④ホテル生息地付近の水生環境を保存しつつ、その環境維持の方策を研究する。	85名	75.2%	5名	4.4%	18名	15.9%
	42名	37.2%	13名	11.5%	49名	43.4%

○黒田庄全体がホテルの生息地ではないか！！ (50代男性)

○清流でカジカの声で蚩舞う。(60代男性)

○利用方法を検討し多くの人が自然とふれあう機会を作る。拡充の必要なし。(60代男性)

○登山口をよく聞かれます。県外からも来られる方もあるようです。(20代女性)

○③資金はどうするのか？ (70代女性)

7)門柳川流域の多様な自然環境を活かすために

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	できれば参加したい		参加しない		何ともいえない	
①宮池の水質改善を進めるために、岡を中心とする支援、協力体制をつくる。	64名	56.6%	11名	9.7%	33名	29.2%
	24名	21.2%	20名	17.7%	63名	55.8%
②秋谷池付近は、里山としての修景保全に努める。	72名	63.7%	9名	8.0%	29名	25.7%
	33名	29.2%	16名	14.2%	58名	51.3%
③ふれあいスタジアム付近でのホテル復活のための条件や環境を検討する。	84名	74.3%	8名	7.1%	20名	17.7%
	33名	29.2%	17名	15.0%	58名	51.3%
④認定コースを有するグラウンドゴルフ場づくりを、地元主体・協同体制で進めていく。	56名	49.6%	19名	16.8%	37名	32.7%
	28名	24.8%	25名	22.1%	56名	49.6%

○黒田庄全体がホテルの生息地ではないか！！ (50代男性)

○宮池の水質改善については岡集落と行政が一体化して進むことが必要 (50代男性)

○宮池は岡の意識の問題 (50代男性)

○グラウンドゴルフは認定したコースでなくても良いと思う。みんながグラウンドゴルフを楽しめたらいいのでは。(60代男性)

○黒田庄のグラウンドの活用をする。

○④の必要なし (60代男性)

8)まちづくりの支援を広げていくために

	そう思う		そうは思わない		わからない	
	できれば参加したい		参加しない		何ともいえない	
①ゆめバンクと協力、協同して、まちづくり活動支援の情報発信や交流会などを企画する。	60名	53.1%	12名	10.6%	38名	33.6%
	25名	22.1%	15名	13.3%	66名	58.4%
②福祉・環境のコーディネーターやボランティア養成のための研修会等を企画する。	66名	58.4%	10名	8.8%	34名	30.1%
	33名	29.2%	15名	13.3%	58名	51.3%
③住民の能力・知恵・資金等を、まちづくり活動に活かす仕組みづくりを検討する。	69名	61.1%	10名	8.8%	31名	27.4%
	33名	29.2%	11名	9.7%	61名	54.0%

○公平性 (70代女性)

9)住民会議として、行政に要請していくまちづくりの課題として、以下のような項目を考えています。

下記項目の中で、あなたが早期に実現を望む項目を3つまで選んで番号に○をつけて下さい。

1	国道175号バイパスや、県道、市道の整備促進	60名	18.9%
2	歩道整備や白線引き等、通行区分などの安全対策の充実	46名	14.5%
3	JR加古川線踏切の安全対策	10名	3.1%
4	加古川の治水対策の早期完了を踏まえて、支流の内水対策の推進	43名	13.5%
5	資源リサイクルの促進策と廃棄物減量対策の具体化	28名	8.8%
6	防災センターの開放利用策の検討	10名	3.1%
7	旧西脇と旧黒田庄や、市内各施設への移動のための地域公共交通の整備	63名	19.8%
8	まちづくり活動強化のための“ゆめバンク”の拡充と運営等の支援	18名	5.7%
9	「魚が食べられる清流・加古川」を目指した水質改善	40名	12.6%
	計	318名	100.0%

### 【今後の黒田庄地区のまちづくりについて、お考えやお気づきの点】についての自由意見

- 切手代200円もかけて…。これも私たちの税金から使われているのかと思うともったいない気で答えましたが。インターネットの利用とかでも考えていただければ…。不法投棄も気になりますが、野焼きもゴミの有料化に伴い増加しています。きれいな空気と水が自慢でしたが、この土地も最近住みにくくなりました。野焼き禁止を徹底してほしいですね。(40代)
- 人権教育の充実が要望としてあるいは質問項目として出ていないのはなぜか。理由もなく消去された理由が知りたい。策定委員会も何回か出ているがこのような形で一方的に意見を削除したり、排除したりしている総合事務所の傾向が残念であるし、およそ中立公正な行政機関と思わない。大きな問題であると思う。(50代男性)
- まちづくりのための組織を十分に検討しないと今のままでは長続きしない。(60代男性)
- 黒田庄地域総合事務所はまだ必要なのですか？ほとんどの業務は市役所からの通知など来るのに必要ないと思うし、市役所の人数も多すぎると思います。市役所に関係ない駐車などよいのですか？ニューウェイズというねずみ講の方たちの車がよく最近おいてありますが…そういうのは注意されないのですか？(30代女性)
- 防災無線の放送は防犯防災を中心に。偏った放送は不要(60代男性)
- 加古川線(JR)の利便性を高めるために、加古川駅～谷川駅は直通電車にし、西脇市駅止まりを無くすることが老人の利用につながる。今後重要視されたい。JR本社へ県市を通じ要求すべきです。(本腰を入れ強く)都市住民との交流も活発に出来るのではないのでしょうか。JR他線のように事故を起こすほどのスピードまで求めてないのですから！！(70代男性)
- スポーツにしても文化活動にしてもボランティアと称する出役が多すぎるのではないか？働き盛りの人間に休日毎に出役を要請する事が町の発展につながるのだろうか。豊かな生活とは個々の考えによって違うもの。特にスポーツ等は好きな人たちで考えて運営するのがよいと思う。福祉対策は必要とは思いますが若者に負担をかける様な事は極力避けるべきであると思う。自立した生活ができるよう努力すべし。(70代女性)
- 基本計画においては地区名とかを入れるべきではない。総論でとめておき、地区名場所名は実施計画で書く方がよいのではないかと思います。(実施計画→行動計画で実施主体が考える方法。宮池…岡地区が主体となって考えるほうが効果的だと思いますが。(50代男性)
- 黒田庄南部にスーパー等ショッピングセンターの誘致。JR加古川線の増便と終点駅での待ち合わせ時間の短縮(60代男性)
- まちづくりに大切なのが人口問題。30代、40代の未婚の方が大勢います。この方たちが結婚できる場づくりをして、カップルを増やし結婚への道作りも大切ではないかと思う。(60代女性)

- 車に乗れない者にとっては、黒田庄は本当に住みにくい所です。これから益々高齢化が進めばもっと困る人が増えると思います。(50代女性)
- 計画策定後の住民の活動が重要になると思います。多くの方が参加できる工夫を…。(50代女性)
- 一人ひとりが心の過疎にならないように誰もが地域づくりに熱くなるようにしたい。地域おこしは高齢化が進み、若者が減る中で大切なことは教育だと思います。地域(古里)を愛する心をどう育てるか、地域の若者の育成も考えることではないか。(60代男性)
- 加古川河川整備の進行により未整理部分の早期検討をお願いしたい。(60代男性)
- 現在子育て中ですが、子どもが遊べる場所がほしいです。暑い夏の日、雨の日、寒い日、外で散歩できずどうしても家で過ごすことになってしまいます。子育て学習センターを毎日開放してくれたら…と思うことがよくあります。公園に行っても友達がいなくて子ども同士を遊ばせてくても遊ばせることすらできない…。児童館みたいなものができたらと思います。(20代女性)
- 交通の便が悪いのはどうにかならないだろうか。働くところが少ないと思います。若い人が黒田庄から仕事に行ける場所がほしい。ひとつひとつ個々にするのではなく、2つを一度にする。子どもから老人まで手伝ってもらおう。みんなを巻き込んでいく。一人ひとりに何らかの役目をもってもらおう。不要な無駄使いはやめる。(50代女性)
- 障害者、老人が安心して生活できるように施設のさらなる充実をお願いします。講習、講演会など文化活動の充実、発表の場を広げる…コンクール・検定(60代男性)
- まちづくり住民会議の活動はすばらしいと思います。しかもっと地域の方々が積極的に何事にも参加することが一番大切だと思います。(40代男性)
- JR黒田庄駅舎あつまっ亭と地域総合事務所の有効利用と、この2施設間及びかりん通りの商店街で継続できる、にぎわいの仕掛けを考えられないかと思案しています。それと、子どもや高齢者、障害者などが安心して暮らせるまちづくりに重心を移していく。大変難しいことだと思いますが、ハード整備は抑制し、内なる資源の活用、相互扶助体制の維持と再構築などソフト面の施策充実を検討していく。(50代男性)
- 子育て学習センターの人員不足で相談などしたい時もあるしできない時もあり、行事などもほとんどボランティア(サークル)の方がいないと難しい状態です。子どもが少なくて時代です。子ども同士、親同士が知り合い、つながっていくには学習センターは必要な場所だと思います。また、道を作るのも大切かもしれませんが、木や森を切るのなら、その分木や森を大切に…植林など自然も大切にしてほしいです。(20代女性)
- 老人会やリハビリ中の方が利用するために町内(福祉センター、黒田庄公民館)への車がもう少しほしいですね。そうすればもう少したくさんの方の施設利用があるように思います。また、老人会の方と若い方とのふれあい、小さい子どもさんとのふれあう場所を作ってもらえたらうれしいですね。(50代女性)
- 諸々の意見、提案がありますが「安全で安心なまちづくり」を全世代が集中的に取り組むことが効果的であると思います。また、「まちづくり」は青少年も中高年者も全員で取り組む方向を示していただきたい。

地域の活性化をはかる事業等の決起が必要である。(70代男性)
- 合併をして、①良くなったと思う点、②悪くなった(不都合)と思う点、③やむをえないと思う点、を具体例を挙げて回答する設問がほしかった。市民生活と福祉の項目で健康面の問いが皆無である。保健センターがなくなり、今年度より住民健診のあり方も大きく様変わりするが、黒田庄地区が不安のないようにしてほしい。受診率は旧西脇市より高いことがわかっているか?合併後、広域の地域交流はありたいが、財政面では苦しく住民生活にしわ寄せがある。人的資源だけはあるのだから、種々の設問につき、NHKでもよく放映した「お困り解決隊」の募集をしてはどうか?かなりの部分、低資金で解決できるものがあると思う。

お詫び…住民会議のメンバーでしたが欠席も多く、申し訳なく思っています。合併後の市の動向については広報誌だけは全部読ませてもらっていますが、市民全体ではどうなのでしょう?(70代女性)

【回答いただいた世代や性別等】

●世代

20才代	4名	3.5%
30才代	15名	13.3%
40才代	18名	15.9%
50才代	31名	27.4%
60才代	29名	25.7%
70才以上	13名	11.5%
不明	3名	2.7%
計	113名	100.0%

●性別

男	61名	54.0%
女	48名	42.5%
不明	4名	3.5%
計	113名	100.0%

●集落

喜多	7名	6.2%
大門	7名	6.2%
津万井	4名	3.5%
福地	5名	4.4%
岡	8名	7.1%
門柳	8名	7.1%
大伏	6名	5.3%
西澤	6名	5.3%
石原	4名	3.5%
田高	11名	9.7%
船町	4名	3.5%
小苗	6名	5.3%
黒田	12名	10.6%
前坂	5名	4.4%
不明	20名	17.7%
計	113名	100.0%